

◇ 長谷川 かおり 君

○議長（松田謙吾君） 公明党、12番、長谷川かおり議員、登壇願います。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） おはようございます。12番、公明党、長谷川かおりです。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

1、支えあう地域づくりについて。

（1）、認知症への理解を広げ、認知症の人や家族が安心して暮らせる環境づくりのため、町が取り組んでいる認知症施策の現状と課題について。

①、家族や周囲の人々が認知症初期の段階から適切に対応するための認知症サポーター養成の普及促進について伺います。

②、認知症のリスク低減につながる取組について伺います。

③、認知症高齢者の行方不明時の対策について伺います。

④、町として認知症施策推進基本計画を策定し推進する考えについて伺います。

（2）、高齢化社会や核家族化の進展に伴い、本町においてもごみ出し困難世帯の増加が予想される。現時点でのごみ出し困難世帯数と支援者の取り組み状況及び課題について伺います。

（3）、町内の3R活動の環境づくりについて。

①、資源回収の実績及び効果の捉えと課題について伺います。

②、3R推進における町内で取り組む資源回収への支援の在り方について伺います。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「支えあう地域づくり」についてのご質問であります。

1項目めの「町が取り組んでいる認知症施策の現状と課題」についてであります。

1点目の「認知症サポーター養成の普及促進」についてであります。認知症サポーター養成講座は平成19年から開始し、令和4年度末までに学生を含めた2,352人の方が受講しております。周知方法としましては、広報や介護予防サロン、認知症カフェにおいて受講の呼びかけを行っております。

2点目の「認知症リスク低減につながる取組」についてであります。現在、認知症のリスク低減につながる事業として、認知症カフェを3か所の事業所に委託しており、令和4年度は174人の参加がありました。

また、送迎加算や認知症サポーター加算を設け、参加者の移動手段の確保や認知症サポーターをボランティアスタッフとして活用しやすい仕組みづくりに努めております。

3点目の「認知症高齢者の行方不明時の対策」についてであります。認知症高齢者が徘徊などで行方不明になった場合、現状では、広域のSOSネットワークを活用し、搜索等を行っていましたが、情報の発信や共有で時間がかかることへの懸念もあり、白老町独自のSOSネットワークを整備し、関係機関との連携が速やかに行えるように体制を構築してまいります。

4点目の「認知症施策推進基本計画を策定し推進する考え」についてであります。現在第9期の介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定中であり、認知症の方とその家族の方か

らの声もお聞きし、認知症施策を計画に盛り込んでいきます。市町村認知症施策推進計画の策定については北海道、他自治体の動向を見ながら、考えてまいります。

2項目めの「本町においてのごみ出し困難世帯数と支援者の取組状況」についてであります。

昨年7月、福祉ごみ収集ニーズ調査を実施しており、ごみ出し支援を受けている利用者は106名と把握しております。年代では80歳代が一番多く、身体状況では、認知機能や下肢筋力の低下を抱えている方が多い状況であります。支援方法としては、訪問介護員による支援が5割、ほか町内に住む家族2割、その他、近隣住民・友人等の支援があります。

また、課題としては支援者の高齢化や訪問介護員の不足があげられます。

3項目めの「3R活動の環境づくり」についてであります。

1点目の「資源回収の実績及び効果の捉えと課題」についてであります。現在把握している古紙回収の実績数字となりますが、令和2年度が参加153団体、回収量352トン、3年度が参加150団体、回収量332トン、4年度が参加155団体、回収量338トンとなっており、過去10年で最も回収量の多い平成25年度の参加144団体、回収量494トンと比較すると、回収量は徐々に減少している状況にあります。

また、本町の資源回収活動は「白老町資源リサイクル推進協議会」が平成2年度に発足して以来、リサイクル率向上に向け取組を進めてまいりましたが、開始から30年を経過していることから、資源回収活動を再度活性化させる必要があると考えております。

2点目の「資源回収への支援の在り方」についてであります。資源リサイクル推進協議会発足後、リサイクル保管庫の貸出し事業を行い、ほぼ全ての町内会や多くの活動団体にご利用いただいております。

今後、資源回収活動を活性化するためにどのような方策があるか、引き続き検討を進めてまいります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。認知症は、誰でもかかる可能性があります。それについて順次質問させていただきます。認知症高齢者が増加していく状況の中で、認知症の施策を推進するためには認知症への理解を広げていくことがとても重要と考えます。そのためには認知症サポーター養成講座の受講者を増やしていく取組が必要と考えます。サロンや広報でも周知をしているということですが、さらに具体的な取組について伺いたします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） 認知症に対する理解促進のためには認知症サポーター養成講座の受講者をさらに増やしていく取組は必要不可欠と考えております。こちらは平成19年から認知症サポーター養成講座を開始しておりますが、年数を経て講座の内容も変化しておりますので、過去に受講された方への勧奨をまず強めて過去に受講された方の受講を促すと、それから今は企業とか職域団体等で新たな受講対象の方を増やす取組も必要だと考えておりますので、そちらの方への呼びかけも行っていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。その点は理解いたしました。

例えば役場の職員も毎年新規で採用になります。そういう関係の受講をしていただいて町民の理解にも広がると思うのですが、その点のお考えをお伺いします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） 役場の職員に対する認知症サポーター養成講座の開催ということなのですが、過去には役場職員向けに養成講座を受けていただくようにやっていたこともあるのですが、結構前にやっていますので、また新たに、先ほど申したように内容等も変わっておりますので、新人職員だけではなくて全体的に役場の職員に呼びかけをして受講してもらうように考えていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） それでは、認知症の施策を推進する上で町の体制、そちらはどのようになっているのかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） こちらは体制になりますが、高齢者介護課において認知症施策を進めるために認知症地域支援推進員、これはオレンジコーディネーターと俗に言われるのですが、こちらを兼務ではありますが、2名配置しております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） それでは、その2名の具体的な、これから配置して行うということですが、チームオレンジのお話も出ましたけれども、活動を促進するために具体的にどのような活動をこれからしていくのか、分かる範囲でよろしいので、お聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） 認知症の地域支援推進員の役割といたしましては、認知症の方とその家族の視点で地域でよりよく暮らしていくために地域の支援体制の構築と認知症の理解促進、それからまた認知症サポーターの活動促進を行うチームオレンジというものを地域において立ち上げるということについてを行うということになっております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） その点は理解いたしました。

次に、認知症のリスク低減につながる取組の再質問でございます。認知症カフェを3か所の事業所に委託していると答弁にありましたけれども、認知症カフェの運営主体、その運営主体同士の横のつながりが大事ではないかと私は思うのですが、現状はどのようになっているのかお伺いします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） 議員がおっしゃるように、認知症カフェの事業所の横の連

携というのは非常に大切であります。それで、新型コロナウイルス感染症前は認知症カフェの運営主体で意見交換、情報共有の場があったのですが、新型コロナウイルス感染症で活動がなかなかできない状況がありまして、その話合いの場とかもできていない状況がございました。コロナ禍においてはそういった場合に町が仲立といたしますか、皆さんの活動状況を把握してそれぞれ事業所にお伝えするようなことでやっておりましたが、新型コロナウイルス感染症も5類になったということで認知症カフェの活動も徐々に戻りつつありますので、今年度中には話し合う場の再開に向けて準備を進めたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） それでは、認知症高齢者の行方不明時の対策について再質問させていただきます。

認知症の行方不明者として全国の警察に届けられた数は2022年で1万8,709人、2021年から比べて1,073人増加となっております。白老町も昨年は家を出たまま帰ることができず、残念なことではありますが、痛ましい姿で発見されるなど、捜索時の課題は山積みとなっております。高齢者SOSネットワークを白老町独自で構築すると答弁がありましたけれども、現在の進捗状況はどのようになっているのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） こちらにつきましては、現在SOSネットワークの要綱を整備いたしまして、徘徊のおそれのある高齢者の方の当然個人情報、その方の顔写真ですとか、身体的な特徴だとか、そういった個人情報の登録、それから徘徊高齢者の個人情報をどう提供するかという情報提供の方法、それから捜索体制について見直しを行っているところでございます。こちらにつきましては一日でも早く、日々認知症の方が徘徊しないとも限らないという状況がどんどん危険性が高まっている部分もありますので、早期に確立する考えでおります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。徘徊高齢者の個人情報の共有の手段の一つとして声かけにお名前も言えないような、そういう状態の方がいらっしゃいます。そういうときに衣類に張りつけたQRコードにスマートフォンをかざすと連絡先が表示される身元が判明するシールの導入や、捜索活動にスマートフォンに取り組んだアプリを活用する考えについて見解をお伺いします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） QRコードのお話でしたが、今はICT、情報の通信機器等を活用した徘徊高齢者の見守りをやる自治体も増えてきております。我々においてもそういった事例をしっかりと参考にしながら検討していきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） そういう手段というのはどんどん進んでおりますし、もちろん今

取り組んでいるGPS機能とかの貸出しもありますけれども、そちらも課題があると思います。そういう課題も踏まえて新たなシステムに取り組んでいくということも重要なことだと思います。

それで、今は第9期の介護保険の計画を立てておりますという、昨日もそういう答弁がありましたけれども、このQRコードのシールまたは新たなアプリを活用する搜索の手段、こういうものを計画に盛り込む考えはあるのかどうかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） 先ほど町長の答弁でもありましたが、第9期の介護保険事業計画において、こちらに認知症の施策についてしっかりと盛り込むということを考えておりますので、そういった実際に具体的な、当然予算のこと等もございますので、どういった形になるかは今この場では申し上げられませんが、認知症施策についてはしっかりと9期の計画に盛り込みたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。課長からもお話がありましたけれども、認知症の施策に対しての計画、認知症の方やその家族の当事者の声を具体的にどのように聞いて、そして施策に反映させていくのか、その考えを再度お伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 山本高齢者介護課長。

○高齢者介護課長（山本康正君） こちらの計画にどのように反映させるかということなのですが、認知症の人と家族の会がございまして。会長、副会長を含めて会の方々にしっかりとお話をお聞きする、それで施策に反映させるということが必要かと考えておまして、今回計画の策定委員会に認知症の人と家族の会の会長を委員としてお願いするということでは承りいただいております。そちらの委員会の場でまずお話を聞くということ、それから回数はあれなのですけれども、時折懇談ということで認知症の方の現状だとか、家族の悩みだとか、そういった部分について懇談してお聞きする機会も設けておりますので、それについても引き続き行ってまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） ぜひ当事者やその家族の声をしっかりと聞き、また高齢化率、今白老町は47%を超えております。全道では11番目という高齢化率になっておりますので、しっかりと施策に反映されることを願っております。

次に、ごみ出し困難世帯について質問いたします。私は、昨年定例会9月会議の一般質問で10リットルのごみ袋について質問させていただきました。その後の販売状況についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 三上生活環境課長。

○生活環境課長（三上裕志君） 10リットルのごみ袋の販売状況でございます。過去3年間の数字を答弁させていただきたいと思いますが、燃やせるごみ袋が令和2年度が4万395枚、燃や

せるごみ全体の6.6%、令和3年度が4万1,505枚で全体の6.8%、令和4年度が4万2,350枚で全体の7.3%となっております、徐々に販売数は増えているといった状況です。

それと、燃やせないごみ袋についてですが、令和2年度が6,565枚で全体の18.8%、令和3年度が9,815枚で全体の28.6%、令和4年度が5,925枚で全体の20.6%となっております、令和3年度が大きくて、令和3年度においては4種類あるごみ袋のうち一番多いのが10リットルというような状況になっております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 10リットルのごみ袋を作ってもらえたということで、下肢筋力の低下が見られている高齢者の方とか、また膝が痛くて思うように歩けない方には本当に体に負担がかかりにくく持ちやすいでしょうし、腰や背中が曲がってしまって小さくなった高齢者の方というのは30リットルとか40リットルのごみ袋というのはどうしても引きずってしまう、そして穴が空いてしまってごみが散乱してしまう。そうなりますと、もうごみ投げもできなくなる、それがごみ屋敷のきっかけになっていくということも私は考えているのですけれども、そういう10リットルの袋を作っていただいて便利に感じている方は多いと思いますけれども、しかし介護の現場で働いている方からはごみ出しに困っている方はまだまだいるよと聞いております。実際に役場にはそういった現場の困ったという声が届いているのかどうかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 三上生活環境課長。

○生活環境課長（三上裕志君） 我々生活環境課に直接来る場合、それと高齢者介護課を通して我々に声が届く場合とありますが、訪問介護に伺った際にやることがいっぱいある中で遠くにあるごみステーションに出すまでの時間がないですとか、中でも多いのはごみ出しのタイミングです。曜日が決まっているごみに対してなかなかその曜日が合わないですとか、ごみの回収の時間に間に合うように出さなければならないと、そういった調整が難しいといったような声はよく聞くところであります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。先ほどヘルパーが100世帯をちょっと超えている家に入ってサービスをしているということで、昨日のヘルパー不足というお話もありましたけれども、介護事業所も生活支援というところでヘルパーを派遣しても、身体介護、お風呂に入れたりとか、おむつの交換とか、食事介助という、そういうところでヘルパーが入ったとしても、ヘルパーのところの収入自体は何をやっても変わらなくて、事業所というのは身体介護をすることによって点数が単価が違いますので、ごみ出しのメインの生活支援が多くなるということはそれだけ介護事業所に収入が少なくなり、そして今はガソリンの高騰とかで経費にすごくかかるので、事業所というのは今とても苦勞しているのです。そういう中で介護事業所の負担を減らして、そしてどうしても必要としている、今申し込んでも空き待ちというところを解消するためにも、まちとしての対策としてごみ出し支援の必要性があると思うのです。それ

で、苫小牧市ではふれあい収集という要介護認定を受けている方や障害者手帳をお持ちの方を対象に声かけし、安否確認を兼ねた戸別収集を行っています。苫小牧市以外の自治体でも行っているかもしれませんが、白老町ではこういった事業を行う考えはないのでしょうか。私としてはごみ出し困難者対策だけでなく、高齢者の見守りという観点からもとてもよい取組だと思いますけれども、ぜひまちの見解をお伺いします。

○議長（松田謙吾君） 三上生活環境課長。

○生活環境課長（三上裕志君） ふれあい収集のご質問であります。先ほど町長から答弁がありましたけれども、昨年7月に高齢者介護課で福祉ごみ収集ニーズ調査というのを実施しましてごみ出し困難者の状況の把握をしている中で、その後に地域ケア会議というのを健康福祉課主体で行っているのですけれども、その中に我々生活環境課も実は参加させていただいて、ごみ出し困難者対策のことについて情報交換をさせていただいております。議員から苫小牧市でやっているふれあい収集というお話がありましたが、我々もその状態は押さえておまして、苫小牧市ですとか、道内でも深川市とか何個かの自治体でそういった事業を行っています。地域ケア会議の中でも議題に上がりましたが、我々もそうですし、高齢者介護課もその必要性については十分認識しているところでありますので、今後関係課とも協議しながら前向きに検討していきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 前向きな答弁ということで担当課長からそのような答弁がありましたけれども、それでは理事者の考えをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） ごみ出し困難者の戸別収集の件のご質問でございます。ごみ出し困難者の状況だとか、それから他の自治体でのふれあい収集の状況、それから地域ケアの会議でニーズがあったということについて答弁をさせていただきました。それで、生活環境課と高齢者介護課の両課においては情報の共有をしながら事前に打合せ等を十分してきた、そのことによって前向きにという答弁になっていると思います。

それで、理事者としてはどうですかという部分ですけれども、今の段階でいつからやりますということは言えませんが、今後戸別収集をしていくという方向性を持って、それから見守りも含めた中で両課については今後やっていくという方向性に基づいて調査だとか検討をしていってもらうことにしたいと思っております。そういった中で町民の方、それからごみ出しを必要とされている方、また先ほど議員からお話がありましたヘルパーの負担軽減だとか、そういったものも含めて事業としてやっていけるきちんとした取組をしていきたいと考えています。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） いつからということは明確ではないということですが、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。5年後、ヘルパーも高齢になって、なかなか次

の担い手がないという状況も目に見えておりますので、なるべく早く取り入れていただければと思います。

次の3R活動の環境づくりについて一括質問させていただきます。白老町のリサイクル活動は、平成2年に資源リサイクル推進協議会が発足し、実質スタート、その後3R推進協議会に名前を変え現在まで続いているものと認識しておりますけれども、町長の答弁にもありましてとおり30年以上が経過しております、マンネリ化の中、停滞している状況を何とかしなければいけないのではないのでしょうか。資源回収活動は町内会や活動団体が主になっておりまして、新聞、雑誌、段ボールなどの古紙が主でありますけれども、一部町内会では缶やペットボトルなども直接資源回収されているところもあると聞いたことがあります。そこで、古紙以外で町内会などで直接資源回収されていない瓶、缶、ペットボトルは資源ごみとして登別市のクリーンクルセンターに一旦集められて分別、加工後売却されていると聞いております。その資源ごみに係る維持管理経費及び資源の売却収入について分かる範囲でよろしいので、答弁いただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 三上生活環境課長。

○生活環境課長（三上裕志君） 資源回収しております、登別クリーンクルセンターで資源回収をいたしまして、そこで処理している処理経費及び売却収入といった質問ですが、まず収入から答弁させていただきますが、これは登別市と白老町を合わせた数字になります、令和4年度の数字で、まず缶の売却収入が約890万円、それと瓶とペットボトルを合わせた売却収入になります、こちらが約1,080万円、合わせて売却収入が約1,970万円になります。それに対しまして処理にかかる経費、こちらはごみ量の案分での計算になりますが、これが約3,530万円、これに収集にかかる経費がプラスになるといったことになります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 登別市と白老町を合わせた数字ですけれども、処理経費が3,530万円、売却収入が1,970万円ということで、収入よりも経費のほうが高い結果となっております。そこで、例えば一部の町内会がやっているような直接資源化するリサイクル業者へ直接売却すると、町内会に売却収入が入ってくるほかに、町としてはクリーンクルセンターに持っていくごみが減るわけですから、登別市に支払う金額は減るということで間違いはないのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 三上生活環境課長。

○生活環境課長（三上裕志君） 議員がおっしゃったとおり、クリーンクルセンターの維持管理経費に係る白老町から払う負担金につきましてはごみ量の案分で積算しておりますので、登別市の持ち込むごみの量と白老町のごみとの兼ね合いもありますけれども、基本的には登別市に持っていくごみ量が減ればその分負担金が減るといった考えで間違いはありません。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 私が質問したのは、近隣の自治体では資源回収活動に対する支援策として売却収入に一定程度の金額を上乗せする奨励金制度を設けている自治体があります。



これによりまして町内会などから直接資源化される量が増えれば自治体の処理量は減り、処理にかかる経費も若干ではあるかもしれませんが、節約されることとなります。白老町においても同様に、登別市へ支払う負担金が減ることになるのではないのでしょうか。また、直接資源化する量が増えることや奨励金制度を設けることによりまして町内会などの収入が増えまして、自由に使える予算が増えることで町内会自体地域も活性化すると私は思うのですが、こちらも理事者の見解をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 資源回収の関係のご質問でございます。先ほどの答弁にもありましたけれども、協議会が発足して約30年近くですか、かなり年数がたっていることで回収量についてはだんだんと下がってきているという部分があるので、今後そういった下がってきた部分を回復させる、リサイクル率を上げていくという取組は必要になってくると思います。そういった中で、奨励金という一つの方法がありますので、この部分については今後についてはもう少し整理をしながら、検討しながら、こういった奨励金の仕方がいいのかということとは十分検討してリサイクル率の向上、それからリサイクルすることによって登別市に持ち込むごみの量が減りますので、負担金の部分でもプラスになると思いますので、プラスになった部分が全て奨励金の財源となるかどうかは別問題としても、そういったことでリサイクル率向上、それから負担金の軽減と、そういった目的を持って取り組んでいきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 高齢化率も上がっていく中で、本当に人と人とのつながりというのがすごく大事になってきます。日本におきまして2025年には高齢者の5人に1人、さらに2035年には85歳以上の高齢者の、認知症の割合ですけれども、6割から7割を占めると言われております。そして、独り暮らしの割合もそれに伴って比例すると推測されております。白老町の高齢化率は47%、全道で11番目となりました。認知症対策は喫緊の課題です。待ったなしです。町としても認知症の方とそこご家族が地域の方々と共に支え合う優しいまちづくりが必要ではないかと私は考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 長谷川議員から支え合う地域づくりについてのご質問でございます。まず、1つ目の認知症施策のご質問でございます。今ご指摘のとおり、白老町は全道の中でも高齢化率が高いというような現状の中では、やはり認知症の施策というのは取組として進めていかなければならないということで私も承知しているところでございます。実は私先日認知症の人と家族の会の役員の方々とお会いして、いろいろと懇談をさせていただきました。その中ではご家族の方が大変ご苦労されているというような生の声も聞かさせていただいて、そういった方々の声をきちんとお聞きして、どう施策に反映していくかということで、担当課長から9期の計画の中にも盛り込んでいくというようなお話をさせていただきましたけれども、しっかりとそういった声を聞いた中で今後の施策についてはやっていきたいと思っております。

それと、2点目のごみ出しの問題でございます。ふれあい収集ということで、今回1答目に

答弁をさせていただいたとおりにニーズ調査をさせていただきまして、今支援をしていただいでごみ出しをしているという現状が多いという中で、そして将来的なことを考えていくと、なかなかこの支援というの、本当に受けられるのであろうかですとか、そういった不安というのが出てくると思いますので、担当課長、副町長より答弁させていただきましたけれども、私といたしましてもそういった課題解決の道にしっかりと進むべきと考えているところでございます。

それと、3点目の3R活動でございます。奨励金制度というようにお話もいただきましたけれども、大事なことは資源の回収の活動を活性化していくということで、これはもう一回3R活動を活性化していくということが重要かと思っています。これは何かというと、白老町もゼロカーボンの宣言、表明をさせていただきました。ゼロカーボンへ向けてというのは、やはりこれはみんなで取り組んでいかなければならないというようなことで、お一人お一人の意識というのがゼロカーボンにつながっていくと私は思っておりますので、こういった3R活動も意識づけ、皆さんがこういうような活動をすることによってゼロカーボンに向かっていくという一つの意識づけにはなるのではなかろうかと私は思っておりますので、しっかりと活性化に向けて取組を進めていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。それでは、2項目めの質問に移らせていただきます。

2、ワクチン接種の助成制度について。

（1）、带状疱疹ワクチンの接種助成制度について。

- ①、带状疱疹の年代別の罹患数と割合について伺います。
- ②、带状疱疹ワクチンの効果について伺います。
- ③、他自治体の带状疱疹ワクチン接種公費助成の取組状況について伺います。
- ④、带状疱疹ワクチン接種の助成の考えを伺います。

（2）、9価HPVワクチンの勧奨接種の取組と男性へのHPVワクチン接種の助成制度について。

①、2023年4月より9価HPVワクチンが公費接種できるようになったが対象者への通知方法と内容について伺います。

②、今年度の接種対象者及びキャッチアップ接種対象者数と現在までの接種人数について伺います。

③、子宮頸がん検診の受診率について伺います。

④、男性へのHPVワクチン接種の助成の考えを伺います。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「ワクチン接種の助成制度」についてのご質問であります。

1項目めの「带状疱疹ワクチンの接種助成制度」についてであります。

1点目の「带状疱疹の年代別の罹患数と割合」についてであります。宮崎県内の医療機関を受診した患者を対象として、1997年から2010年まで実施した带状疱疹の大規模疫学調査による年代別罹患数は、50歳代未満が22,487人、50歳代が12,513人、60歳代が14,605人、70歳代が13,784人、80歳代以上が6,746人で、罹患者は50歳代から急激に増加して患者の約7割を占め、80歳までに3人に1人が発症すると推定されております。

2点目の「带状疱疹ワクチンの効果」についてであります。ワクチンを接種することで、带状疱疹の発症率を下げ重症化を防ぐほか、带状疱疹後神経痛等の後遺症を予防する効果が期待できることから、接種の意義は大きいものと認識しております。

3点目の「他自治体の带状疱疹ワクチン接種公費助成の取組状況」についてであります。公費助成を行っている自治体につきましては、令和5年8月現在、道内では30自治体、全国では273自治体あり、その多くが対象年齢を50歳以上とし、それぞれ独自の助成額を定めている状況であると把握しております。

4点目の「带状疱疹ワクチン接種の助成の考え」についてであります。ワクチン接種の必要性は認識しているものの、国において带状疱疹ワクチンの予防接種法上の定期接種化が継続審議されていることから、その動向を注視するとともに、他自治体の取組状況なども踏まえ、本町における公費助成についての検討を進めていく考えであります。

2項目目の「9価HPVワクチンの勧奨接種の取組と男性へのHPVワクチン接種の助成制度」についてであります。

1点目の「2023年4月より公費接種できるようになった9価HPVワクチン接種の対象者への通知方法と内容」についてであります。新たに定期接種対象となる小学6年生と、前年度に未接種であった中学1年生から高校1年生相当の女子に、案内文書及びワクチンの効果や必要な接種回数等を記載した予防接種説明書を個別に郵送しております。

2点目の「接種対象者及びキャッチアップ接種対象者数と接種人数」についてであります。4年度は定期接種対象者238名のうち接種者は18名、キャッチアップ接種対象者374名のうち接種者は58名、5年度は8月現在で、定期接種対象者209名のうち接種者は11名、キャッチアップ接種対象者402名のうち接種者は12名となっております。

3点目の「子宮頸がん検診の受診率」についてであります。20歳から69歳までの女性を対象とする子宮頸がん検診の受診率は、2年度10.89%、3年度9.30%、4年度9.67%となっております。

4点目の「男性へのHPVワクチン接種の助成の考え」についてであります。性交渉を通じてHPVに感染し子宮頸がんを発症するほか、性別に関係なく発症する中咽頭がん、肛門がん、直腸がんや性感染症等を予防する効果があることから、HPVワクチンは男性の接種も有効とされていると承知しております。

しかしながら、現在は、国において男性の定期接種化についての審議を始める準備段階であり、本町においてはその動向を注視しながら、公費助成について検討していく考えであります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。带状疱疹ワクチンについて一括質問させていただきます。

町民の方から、私は7月に带状疱疹にかかってしまい、もともと足腰が弱くなりかけていたけれども、足の付け根に発疹ができて、激痛は3日ほどで収まったけれども、まだしびれが続いて転ぶ心配もある。どこに行くのもつえをついて歩いていくようになったのだよというお話を先日お伺いすることがありました。テレビで带状疱疹は何度もかかるということや、ワクチン接種をすることでまたかかっても軽く済むのだということは情報で知ることではできたのだけれども、また痛い思いはしたくないから予防接種を考えているけれども、少しでも安くなる制度はないのかということも声をかけられました。高齢者には関心が高くなっている带状疱疹ワクチンの予防接種について、まちへの問合せや健康相談とかがありましたら、お聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） ただいまの带状疱疹ワクチンの予防接種について問合せがありましたかというご質問でございますけれども、テレビとかのコマーシャルの関係の影響もあってか問合せは現在のところも数件受けているような状況でございます。その内容につきましては、まずワクチンの接種できる医療機関がどこかということとか、あと接種費用についてが主なものでございました。その都度病気の内容につきましても含めて保健師より対応してお答えさせていただいております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。それでは、带状疱疹には2種類あると聞いております。効果の違いと、町民からも問合せもあったということですのでけれども、金額や町内で取り扱っている医療機関についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） 議員がおっしゃるとおりワクチンには2種類ございまして、生ワクチンと不活化ワクチンの2種類となっております。生ワクチンにつきましては、病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料として作られております。もう一つの不活化ワクチンにつきましては、病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせたものを原材料として作られております。生ワクチンにつきましては接種回数は1回で済みます。接種費用につきましては7,000円から1万円程度かかります。不活化ワクチンにつきましては接種は2回が必要となりまして、料金につきましても1回当たり2万円から2万5,000円となっております。また、発症を抑える効果でありますけれども、生ワクチンにつきましては約50から60%、不活化ワクチンは約97%となっております。効果の割合についても違いがある状況であります。また、町内で接種を実施している医療機関でございますが、現在は2つの医療機関、町立病院と生田医院で実施しておりまして、どちらの医療機関も生ワクチンの接種のみ行っております。料金につきましてはそれぞれ7,000円前後の料金ということで実施しております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。金額も高くてもなかなか打ちたくても打てないという方が本当に多いかと思えます。免疫力の低下に伴いまして50歳代からの発症率が増加しております。新型コロナウイルス感染症にかかったことで発症率が高まる可能性があるとも示唆された報告もあります。健康寿命を延伸し、元気な高齢者が支援を必要としている、そして高齢者を支えていかなければならないこの状況の中で带状疱疹ワクチンの接種はとても重要な鍵を握っているのではないかと私は考えております。

昨年9月に带状疱疹ワクチンの助成について質問したときには取扱いしている自治体は2か所でした。1年足らずで30自治体が公費助成に踏み切っております。ほかの自治体の取組状況なども踏まえて検討すると答弁がありましたけれども、1年で28自治体増えていることをどのように捉えているのか、理事者の考えをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 議員からご指摘がありましたように、带状疱疹ワクチンというか、带状疱疹のこの件につきまして50歳以上の方々の発症率が非常に多いと、そういう意味合いで高齢化が高い本町においては元気な高齢者になるための一つの方策としてこのワクチン接種が必要だということは十分認識をしております。ご指摘があったように、2自治体からプラス28で30になった、その事実について本町としてもそういうふうに広がってきているという、前段に言ったように必要性としては他の自治体の状況も含めてそのところはしっかりと捉えております。ただ、本町において、町長の1答目にも答えさせていただきましたように、国の状況も含めて定期接種が今後どう成り立っていくのか、その辺の状況もしっかりとつかむ必要があるだろうということでは押さえております。ですから、本町は今独自のワクチン接種の助成ということにはなかなかできない部分もありますけれども、十分その方向性だけは見定めながら、今後しっかりとその在り方については考えていかなければならない課題だとは十分捉えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。白老町議会議員の総意として带状疱疹ワクチンの公費接種を進めるよう昨年12月の定例会で国に意見書を上げております。国の動きというところですけども、胆振管内ではまだどこも実施しておりません。その中で白老町が率先して手を挙げてほかの胆振管内の市町村を引っ張っていくような、そういう立場も私は見せていただきたいと思えます。町内では生ワクチンを取り扱っているというところで、そのところでは助成制度を設立する一つの手だてはないかと思うのですが、その考えを町長、もう一度国に要望をしていく考えと、さらに部分的に助成を考えるかどうか、そのところもう一度町長のお考えをお聞きします。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 带状疱疹ワクチンの助成のご質問でございます。実は私の周りにも帯

状疱疹に悩まされている方、いろいろとお話を聞きます。本当に大変だということでお話は重々承知しております。それで、ワクチン接種ということで、新型コロナウイルスのワクチンというような部分も含めてワクチン接種の効果というか、新型コロナウイルス感染症の部分でいいますと、皆さんの意識としてワクチンを打つことによって安心するというような意識というのが新型コロナウイルス感染症によって皆さんに浸透したという言い方がどうかあれなのですが、ですからこういったワクチン接種の助成というのは非常に重要ですし、行政として必要な部分だと感じているところでございます。ただ、带状疱疹ワクチンについてはまだ国でもいろいろと議論するところも多いというような状況の中では、長谷川議員のご指摘のとおり管内でどこもやっていないから白老町が引っ張ってやれよというご意見も重々承知はするのですが、まずは定期接種化に向けて、これは地域と連携した中で、他自治体とも連携をした中で、しっかりと国に要望していくというようなことがまず白老町のできることで第一歩かと。その中では接種の部分については重要なことと捉えておりますので、状況を踏まえた中で公費助成については考えていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。それでは、次の質問に移ります。

9価HPVワクチンの勧奨についてお伺いいたします。4月から開始となった9価HPVワクチンの効果と費用についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） このワクチンは、日本では2021年4月から発売となりまして、接種が可能となっております。対象は9歳以上の女子のみということで、効果としては子宮頸がん及び前駆病変等の疾病と、あと性感染症の予防とされております。4価のワクチンと比較しまして病変が減少したというような効果もあると報告されているというところです。費用につきましては、1回当たり2万5,000円から3万5,000円となっております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） それでは、2価と4価、その違いと町内で接種を行っている病院と学校の授業の関係で町外の病院で接種する学生もいると思いますけれども、どのような対応を行っているのか、その点についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） HPVワクチン、今は2価、4価、9価とありますが、2価と4価の違いということでありますけれども、まず価数というのがワクチンの中に含まれるウイルスの数であります。2価と4価の効果はほとんど差はないということとなっております。子宮頸がんの原因となりますHPVウイルスの約6割を防ぐ効果があるとされております。ちなみに、9価につきましては約8割から9割の予防効果があるということでございます。

また、町外の病院で接種した方についての経費の負担につきましてですが、実際に町外の学校へ通っているお子さんとかで町外の医療機関で接種した場合は、一旦は病院の窓口でお支払

いいたきたいというところです。その後に申請していただきまして、償還払いということで費用をお戻しをさせていただいております。ただ、事前にこういう接種を受けますよということで健康福祉課にご連絡いただきますと、予防接種実施依頼交付申請書というものを出力していただき、予防接種の被害救済の対象とさせていただいているところであります。

○議長（松田謙吾君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時00分

---

再開 午前11時14分

○議長（松田謙吾君） 休憩を閉じ、一般質問を続行いたします。

12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。キャッチアップ対象者についてご質問させていただきます。

人数が少しずつ年々増えているというところが気になることと、あとキャッチアップ接種の対象者は令和7年までとなっておりますけれども、3回目の接種終了者が期間中に済ませるにはいつ頃1回目を接種するのか、また最終通知の発送はいつになるのか、キャッチアップ世代への対応も積極的に取り組むべきと考えますけれども、まちの見解をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） HPVワクチンは、平成25年から予防接種法に基づきまして小学6年生から高校1年生相当の女性を対象として定期接種が始まりましたが、副反応等の問題がありまして接種の勧奨を控えておりました。令和3年11月の専門家会議で安全性について特段懸念されることはないということで、翌年4月から定期接種の積極的勧奨を再開しております。令和4年から6年度末の3年間に限ってキャッチアップというか、積極的勧奨の差し控え中に接種の年齢を迎えた方につきましてはキャッチアップ接種ということで接種することができます。この方たちは令和7年3月までがキャッチアップの対象期間となりますので、3月末までに接種を完了するためにはまず3回接種、この予防接種については3回接種が必要でありまして、1回打って、2回目、3回目とある一定の期間を受けることが必要で、3回接種するまでに半年間、6か月を要するというので、令和7年3月末までに全て終わらせるためには前の年の9月頃までには1回目の接種をすることが必要となっております。この対象者については、昨年の4年度、積極的勧奨が再開された令和4年度の当初に対象者ですということで個別通知を行いまして、今年度は行っていないのですけれども、来年度は最終年になるということで、6年度にも改めて個別通知はさせていただきたいとは考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 打つ、打たないは本人の決めることですがけれども、一人でも多く機会を設けることができるようにしっかりと周知していただければと思います。

次、子宮頸がん検診の受診率ですがけれども、10%前後というところは、これが低いのか高い

のか、ほかの自治体と比べて白老町の現状はどうか、その点をお聞かせください。それと、なぜ子宮頸がんの検診が必要なのか、そこの点もお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） 子宮頸がん検診、白老町は約10%ということでございますけれども、他の自治体と比べてこの数字が決して低いということではありません。この10%の中に含まれる対象者ということは国民健康保険等の加入者ということで、この中に職域受診されている方は含まれていない状況ではあります。

子宮頸がん検診の必要性ということのご質問であります、HPVワクチンを接種するとある程度の予防効果はあるのは間違いないことではあるのですが、全てのウイルスを予防することはできないということで、ワクチン接種と併用して子宮がん検診を受けていただくというのがとても大事になってくるというところでございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） その点は理解いたしました。

それでは、厚生労働省はこれまで女性のみ接種が認証されていたHPVワクチンが上限を設けず、9歳以上の男の子への接種を認めました。予防効果として性別に関係なく発症する中咽頭がん、肛門がん、直腸がんや性感染症を予防する効果があると答弁でもありますように、今後まちとしても周知の取組が必要ではないでしょうか。見解をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 渡邊健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邊博子君） ただいま議員がおっしゃられたとおり、男性の接種につきましても効果が認められるということで、現在9歳以上の男子に対して4価ワクチンの接種を受けることができるようになっております。今後女性に対してのHPVワクチンの接種勧奨をするときに、男性にも性別に関係なくかかる病気、疾患、中咽頭がんや肛門がんなどの疾患にも打つと予防効果がありますよということを併せて載せて周知していきたいとは思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。報道では東京の個人病院で小学6年生から中学生の男の子を対象に1回無料でHPVワクチンを接種しますよと募集をかけたところ、倍以上の応募があったとありました。また、インタビューに答えていた中学1年生の男子生徒は、家族と話し合っ、将来のパートナーにウイルスを感染させないため、そして相手を思いやり、命を守るために決めましたと話されていたことがとても印象的でした。ある発表論文によりますと、咽頭がんは60歳から70代が喫煙や飲酒で罹患すると医学的に根拠があるというところで発表されておりますけれども、HPV感染が原因の中咽頭がん罹患する40代から50代の働き盛りの患者が急増しているという報道もあります。医療費のみならず、経済的損失も大きいと掲載されておりました。町民の命と健康を守る観点から、国の検討を待つことなく積極的な公費助成で男性のHPVワクチン接種を進めるべきです。余市町では今年の春から実施しており



ます。町長の考えをお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） HPVワクチンの接種の関係でございます。先ほど带状疱疹のワクチンとも同様の部分はあるのですけれども、ワクチン接種に対する意識の高まりというか、それというのは重々私も承知しているところでございます。HPVワクチンについては男性についてもということで、9歳以上の4価ワクチンですか、こちらについても効果が認められているというような状況を踏まえると、しっかりとしたそういった助成についての考え方というの整理していかなければならないと思っています。ただ、今の状況としては国も定期接種化に向けて準備段階というような状況を踏まえると、白老町の現状としてはこういった情報の収集と情報のしっかりとした取得、これをしっかりとした中で今後白老町としてどのような施策を打っていくべきかというような段階ではないかと私は考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 前向きに進めていただければと思います。

それでは、次の質問に移ります。3、スポーツ振興の在り方について。

（1）、町内各種スポーツ団体の活動実績と推移について伺います。

（2）、桜ヶ丘運動公園の利用状況と整備状況について伺います。

（3）、人を呼び込むスポーツ環境の整備推進の考えについて伺います。

○議長（松田謙吾君） 安藤教育長。

〔教育長 安藤尚志君登壇〕

○教育長（安藤尚志君） 「スポーツ振興の在り方」についてのご質問であります。

1項目めの「町内各種スポーツ団体の活動実績と推移」についてであります。

本町におけるスポーツ団体は、いずれも町内大会の開催・運営や町外大会への参加のほか、研修会や講習会の開催などを行っております。

平成25年度においては、白老町体育協会の加盟団体数及び会員数は32団体1,460名、スポーツ少年団の団体数及び団員数は11団体249名であったのに対し、令和4年度においては、加盟団体では24団体1,019名、少年団では7団体99名と、人口減少や少子高齢化などの理由により加盟団体数は減少傾向にあります。

2項目めの「桜ヶ丘運動公園の利用状況と整備状況」についてであります。

同公園は町内唯一の運動公園として、敷地内には広場や園路のほか、野球場や陸上競技場、温水プール、テニスコートなど、町民の競技力向上や健康増進のためのスポーツ施設を有しております。

これらの施設における令和4年度の利用者数については、野球場は1,962名、陸上競技場は3,649名、温水プールは1万9,606名、テニスコートは145名となっており、同公園内の稼働状況ではテニスコートの利用割合が特に低迷している状況にあります。

3項目めの「人を呼び込むスポーツ環境の整備推進の考え」についてであります。

スポーツは、人に誇りと喜び、夢と感動、勇気、楽しさを提供するのみならず、経済社会の

活性化や課題解決に寄与する多様な価値を有するものであります。

また、現代社会においては、生活習慣病の疾病予防や老化防止、健康長寿のための身体づくりなど、スポーツ・身体活動の果たす役割の重要性が高まっております。

本町においては、いずれの施設も老朽化が進んでいる現状にあることから、将来に向けた町全体の公共施設の在り方を総合的に勘案するとともに、地域おこし協力隊や先日、包括連携協定を締結した総合型地域スポーツクラブサフィールヴァと町内関係団体との連携を強化し、町民はもとより多くの方々がスポーツに親しむことができる環境を構築してまいります。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 長谷川です。順次質問させていただきます。

人口減少や少子高齢化などの理由で体育協会の加盟団体が減少傾向にあるということで、スポーツ振興を進める大きな課題の一つと言いますけれども、登録団体の会員数の規模はどのような状況になっているのか伺います。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） 白老町体育協会の加盟団体が先ほど教育長から答弁がありましたが、その中の状況について説明をさせていただきたいと思います。

先ほど会員数が1,019名ということで団体数が24団体ございました。実際この中で団員数の状況でございますが、一番多いところで白老テニス協会が206名の会員数となっております。その次に多いところで軟式野球連盟が165名、3番目に多いところで白老パークゴルフ協会94名、4番目に白老ソフトテニス協会63名で、大きくテニス関係でいきますと2つの団体を合わせて269名で全会員数の4分の1を占めていると。今説明したテニスとパークゴルフと軟式野球を合わせますと528名で、会員数の約半分がこれらの運動をされているというような状況となっております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。白老テニス協会やソフトテニス協会の会員規模が大きいのに桜ヶ丘テニスコートの利用が145名となっております。特に低い数字だと思っておりますけれども、この状況は何か理由があるのか、その点をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） 桜ヶ丘のテニスコートでございますが、こちらにつきましては平成3年に整備をされておりまして、こちらは全天候型のラバーチップを採用したハードコート6面を完備しております。設置から30年以上経過してきている中で、このラバーチップが老朽化をされておりまして、一部その下のアスファルトがむき出しになっているとか、不陸の状態というような状況がございまして、実際大会だとかで運用を図っていくとつまずきですとか転倒のおそれがあるというようなことが危険性として挙げられていることと、ラバーチップの劣化によりましてテニスボールなんかもすぐ汚れてしまうというようなことから、大会招致ですとか団体利用という部分で支障を来しているのではないかと捉えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 現状は理解いたしました。

テニス協会などからこれまでにコートの環境改善の要望はあったのでしょうか。また、30年経過しているテニスコートを維持するためにどのような対策を検討してきたのかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） 平成28年、今から7年前になりますが、平成28年10月にテニス協会とソフトテニス協会の連名で町宛てに要望書ということでお受けをさせていただいております。その要望内容としましては、桜ヶ丘運動公園のテニスコートのサーフェスといいます表面の環境を改修を図っていただきたいというような要望を受けてございます。町としましては、この要望を受ける前に、平成27年になりますが、このテニスコートの改修について検討を図ってきたという経緯がございます。当時は防衛局の補助金を活用して改修を図ろうということで計画を立てておりましたが、ここの桜ヶ丘運動公園テニスコートにつきましては土砂災害の警戒区域ということに位置づけられたということ踏まえまして、この補助金の活用も難しいというような判断を受けておりました。そういう状況の中で翌年の平成28年に改修についての要望を受けまして、引き続き教育委員会でも各団体だとか業者等を含めまして改修の方向性についていろいろ検討を進めてまいりました。そういう中ではスポーツくじのt o t oの助成を活用した中で、この6面のコートにつきましてラバーチップを全部剥いで、その上から人工芝で改修ができないか検討をしてまいりました。あわせて、周辺のフェンスなんか一部入替えをしながら、当時工事総額で約8,300万円ぐらいの整備費をもって整備をしていけないかというようなところまで検討をしてきたところでございます。

そういう状況の中で、実際検討まではしてきたところでございますが、やはり土砂災害の警戒区域に当たるということから、教育委員会としましてもここの改修につきましてはなかなか難しいというような捉え方の中で、代替地がないかだとか、そういうようなことも含めて検討してきましたが、大会招致をしていくような使い方になってきますと駐車場の整備ですとか、そういったところの課題もありまして、今後の整備の在り方については利用団体の声を聞きながらも、ニーズ調査ですとか役場内の合意形成なんかが必要ではないかというようなことも含めまして検討はしてきたというような経過がございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。桜ヶ丘運動公園テニスコートが土砂災害警戒区域に指定されたというところで思うように進まないという、また金額も土砂災害警戒区域に指定される前に8,300万円かかるというところも、なかなか進まないというところも、そこは理解できます。ただ、協会の人たちは年6回の大会運営も行われており、苫小牧市のコートを借りてやっておりますけれども、なかなか全大会をこなすことができない、そのコートが使えないのであれば町内で代替できる環境をしっかりとつくり上げてほしいという声を私は要望と

して受けました。それで、近隣市の利用環境の現状または町内で代替できる環境をどのように進めていくのか、町の対応をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） まず、白老町内にテニスコートが桜ヶ丘運動公園以外にさらに2か所整備をしてございます。総合体育館の道路向かいにございます白老テニスコート、こちらがクレーコートで3面、夜間照明を完備しているというテニスコートでございます。それと、もう一つ、萩野のテニスコート、小中学校のグラウンド面に設置をしております。こちらでもクレーコートの2面を完備しておりますが、夜間照明のないテニスコートでございます。町内にはこれらのテニスコートを含めて3か所あるというような状況でございますが、いずれの2か所のクレーコートもフェンスが相当さびがひどい状況の中で非常に危険であるというような状況がございます。そういう中で、実際の利用状況につきましては、桜ヶ丘のテニスコートは先ほどの答弁の中で145名の利用でございましたが、白老テニスコートにつきましては1,962名のご利用がございました。萩野のテニスコートでいきますと3,649名というこの利用の中で、一定限の利用があるというようなことで押さえております。

また、町外の環境でいきますと、苫小牧市では緑ヶ丘のテニスコート、こちらは人工芝のオムニコートというものでございますが、20面を完備しているというような状況でございまして、私も春先にどういった利用状況かということで現地を見させていただきました。ちょうど週末に見に行きましたところ、苫小牧市内の団体が団体利用ということで全20面を押さえて大会をされているというような状況でございました。実際白老テニス協会なんかも主催の大会を行う際には先ほどの桜ヶ丘のテニスコートの現状からいってなかなか大会を開催できないというような状況から、苫小牧市のテニスコートを利用せざるを得ない状況には実際あります。ただ、現状は苫小牧市内でもテニスの愛好家が非常に多いような状況で、町外からの団体がテニスコートを押さえて利用するという点に関しては市民からもいろんな声があるということで伺っております。そういう中で、望む大会数をこなしていけないというような状況にあるというようなお声も聞いているというような状況もございまして、町の考えということで先ほどご質問がありました、このような状況も含めていきますと、一定限のテニス環境というのは町内においても必要ではないかと考えているところでございます。ただ、土砂災害警戒区域の中でいくなかなか難しいということも1つ桜ヶ丘についてはありますし、その他2つのテニス環境をどのように環境改善していくかというところについて教育委員会としては検討していく必要があるのかと思っております。

また、要望のあったお話につきまして、先ほど平成28年のお話をさせていただきましたが、実は今年に入りましてソフトテニス協会からは白老のテニスコートをいつも利用しているけれども、だんだん表面にコケが生えてきているだとか、トンボがけをしても小石が浮き出てくるというようなことで、専用の土を入替えをしてきれいな環境にしてくれないかというような要望も受けておりますので、担当課としてもできる限りそういった部分の環境改善については検討していきたいと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。一番テニス協会の中で人数が多いところが町内で使用できるコートがないということが現状でございますので、しっかり今あるコートの環境整備をしてソフトテニスも硬式テニスも一緒に使えるような、そんな環境づくりを進めていただけたらと思います。

以前同僚議員の質問に対して秋までには社会教育委員などの専門的意見を聞きながら、来春に向けて所管施設の方針を進めていくと答弁しておりますけれども、桜ヶ丘運動公園などのスポーツ施設に関してどのような意見が出されているのかお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君） 定例会6月会議の中でこのようなお話を教育委員会としてこの場で説明をさせていただいたところでございます。町として公共施設適正配置計画の策定がこれから進められていくというようなことを念頭に、担当課としてもスポーツ、そして社会教育施設の在り方、整備の方向性、方針等については、まずは社会教育委員の皆さんに秋までにいろいろ専門的な意見を聞き、今年度末もしくは来年度早々に教育委員会としての方針を固めていくというようなことで答弁をさせていただきました。それで、8月21日の日に社会教育委員の会議を開催をいたしまして、所管するスポーツ施設並びに社会教育施設全般の現状について各施設の写真なんかを用いながら説明をさせていただき、いろいろ意見をいただく場面を設けさせていただきました。そういう中で、今回桜ヶ丘運動公園という中での今のご質問でございましたが、実際どういう意見があったかと申しますと、まず桜ヶ丘のテニスコートのこれまでの要望を受けた町としての対応につきまして、先ほど答弁させていただいたような内容も説明をさせていただきました。そういう中では桜ヶ丘テニスコートの改修につきましては、費用対効果について疑問があるのではないかなというようなご意見もいただいたところでございます。また、桜ヶ丘運動公園全体的な魅力化を図って町民のみならず多くの方々が遊びに来れる、そんなような魅力化を図ってほしいというようなご意見のほか、ここの運動公園の中に町民温水プールもございました。町民温水プールにつきましても、これは今後も絶対になくすべきではないというような意見で一致がされたということで、特に学校関係者からも水泳の授業の中では移動時間込みの授業ということになりますので、遠くなってくると学習内容の薄まりについても懸念がされるというような、そんなような意見がありました。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 様々な意見があるということで、そこもこれから白老町のスポーツ振興に対しての期待もあるということでお話を伺うことができました。

本町におきましては、地域おこし協力隊に初のスポーツ振興担当の方が採用になり、総合型地域スポーツクラブサフィールヴァとも包括連携協定の締結をしたということで、白老のスポーツ環境に明るい兆しが見えてきているのではないのでしょうか。町長の答弁にもありましたように、生活習慣病や疾病予防、本当に世代を超えてスポーツに取り組み、身体活動の果たす役割の重要性というのも見えてきていることと思います。

それで、スポーツ環境を整えることも町の魅力づくりの一つでもあり、人を呼び込む力にもなると思います。白老町は旧社台小学校の体育館の活用など、あとはいろんなところもあります。子供たちもスポーツを通して心身ともに得るものはたくさんあるのではないのでしょうか。いま一度町長のスポーツ振興に対する思いをお聞きして、私の一般質問を終了いたします。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） スポーツ振興の在り方についてのご質問でありました。教育長からの答弁でもありましたとおり、スポーツの力というのが物すごい力というか、やることもそうですし、見ることもそうですし、直近でいえばバスケットの日本代表が大活躍して自力でオリンピックを決めたということで日本中が盛り上がったというようなことで、本当に勇気と力を与えてくれるということでスポーツの力は大きいということで私も認識しております。

それで、今年度の白老町の重点項目の一つとしてスポーツの機会の充実ということで掲げさせていただいております。そういった中ではいろいろと各団体のご協力をいただいた中で確実に歩みが進んでいるということで、私もよかったなとか、大変喜んでいただいております。ただ、そういったスポーツ環境を重視している一方ではスポーツをする場、その施設がご承知のとおり白老町は老朽化が進んでいるというような現状に、壁にぶち当たっているところがございます。これは全ての施設、テニスコートやらプールやら全てきれいにすることができれば本当は言うことはないのですけれども、現実的には不可能な現状となっております。ですから、そういった意味では生涯学習課長からも答弁したように、公共施設の適正配置も含めた中で優先度を決めるですとか、あとは各団体の皆さんのお声を聞くというような中でどういったスポーツ施設の充実をしていったらいいかということは今後議論をしていきたいと思っております。

さらに、長谷川議員から人を呼び込むスポーツ環境というようなことで、スポーツが活性化していく、これはもちろん町民の皆さんが大優先でございますが、そういったスポーツで人を呼び込むということで、そういったことも重要かと考えておりますので、スポーツの振興についてはしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 以上をもって公明党、12番、長谷川かおり議員の一般質問を終了いたします。